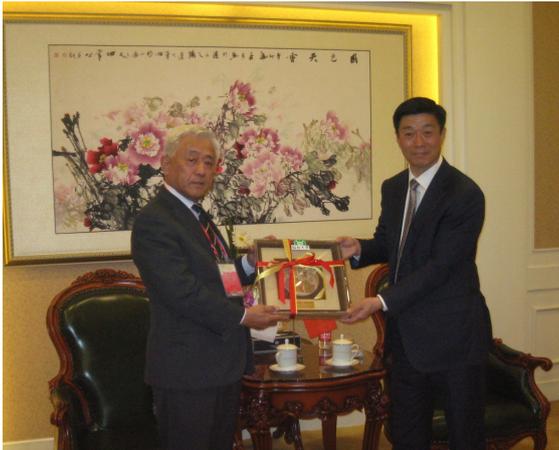


Monthly Report

中国 瀋陽師範大学開学65周年記念式典に参加



記念品の交換を行う朴澤理事長（左）と林群学長（右）

開学65周年式典のお招きを受け、5月19日～22日、朴澤泰治理事長・学事顧問、荒井龍弥国際交流センター長および馬佳濛講師が瀋陽師範大学を訪問しました。学長会見では、朴澤理事長・学事顧問が瀋陽師範大学の林群学長に65周年のお祝いの言葉を述べると、林

群学長からは「仙台大学

との交流を非常に重視しています。これまでの交流が大変良い成果を挙げていたことを感謝するとともに、今後も更なる発展を望みます」とのご挨拶をいただきました。

式典の一環として、「学校教育国際化シンポジウム」が行われました。本シンポジウムは、瀋陽師範大学と各国の協定校（計23大学）の代表が、大学教育の国際化の現状や取組等について発表および検討を行うものです。本学からは、朴澤理事長・学事顧問が「国際化に向けた人材育成」のテーマで、オリンピック・パラリンピック観戦その他で来日する外国人観光客の勧誘等を対象としたインバウンド事業、および外国人選手のキャンプ地誘致などの地方創生に関する国家政策の動向を紹介し、これら事業への参画を通じて、地域貢献という大学の使命の遂行、また大学教育の国際化を図っていききたい、そのために瀋陽師範大学との交流をさらに深めたいと発表しました。

そして、協定校ごとに植えられた木々が並ぶ「友誼林」（ユギーリン）における植林セレモニーも行われました。贾大学副書記と朴澤理事長が仙台大学との協定記念の碑を除幕し、新しく植えられた木に水を撒きました。夜の部では、瀋陽師範大学の教職員および学生による盛大なパフォーマンスショーを鑑賞しました。

(次頁へ)

〈目次〉

瀋陽師範大学開学65周年	1
男子サッカー部と漕艇部が熊本地震の募金活動	2
仙台89ERS感謝の集い	3
大元英照選手リオ五輪への出場が決定	4
第90回学術集会	5
復興庁 学生ボランティアイベント参加団体に選定	6
明仙育進会 学生の活動・活躍	7-9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
 直通 0224 - 55 - 1802
 E-Mail kouhou@sendai-u. ac. jp

式典参加に先立ち、前日に、瀋陽師範大学体育科学学院の周院長等と今後の国際提携の方向性について会議が行われました。体育科学学院では、仙台大学を中心とする海外の大学との提携等を専門に担当する副院長を新たに配置しており、交換留学については、学部生においても交換留学生制度を拡充する意向が確認され、半年または一年以上の長期留学、また単位互換やダブルディグリー等の制度化についても今後の検討事項となりました。さらに、来月の「海外武道実習」短期派遣研修に関して、中国武術の研修状況を評価し、中国武術の段位や履修証明などの認定書を得ることが可能かと打診したところ、体育学院の周院長からは、一定レベルに達すれば、認定可能との回答がなされました。



記念植樹を行った（左から）馬講師、賈大学副書記、朴澤理事長・学事顧問・荒井国際交流センター長

その後、仙台大学大学院への進学を推薦された2名の学生との面接を実施しました。両名とも日本文化および仙台大学に強い興味を持ち、それぞれの専攻分野について仙台大学大学院で修学し母校に還元したいと語っていました。

今回の式典では仙台大学に対して最上級の接待をいただきました。瀋陽師範大学と仙台大学との交流は今年度で9年目になりました。馬講師がかつて瀋陽師範大学の教官であった当時、前学長や現学長の卓球の指導者であったこと、あるいは朴澤理事長・学事顧問と両氏との個人的な信頼関係が強いこともあり、互いに親身になりさまざまな領域で交流が進められています。今後も互惠の原則に基づき、さらに交流が発展していくこととなるでしょう。

（報告：馬 佳濛 講師）

男子サッカー部と漕艇部が熊本地震被災地への募金活動

平成28年4月14日に発生した熊本地震を受け、男子サッカー部と漕艇部がそれぞれ、学内で被災地への寄付を目的とした募金活動を展開しました。

男子サッカー部は今回熊本で起きた地震で困っている方に何か出来ないかと考えていたところ、本学サッカー部OBの齋藤恵太さん（J2 ロアッソ熊本）が賛同し参加しているYOUR ACTION KUMAMOTO（代表：巻誠一郎選手）が被災地の避難所にいる子供たちへの運動教室やサッカー教室の開催、避難所に物資を配給する活動等を行っている事を知り、その活動を通して募金活動で集めた義援金を寄付しようと思ったそうです。キャプテンの繁田秀人さん（体育学科4年 埼玉県与野高校卒）は「募金を通じて人の温かさを感じた。5年前の震災で救われた立場の我々が、今回は熊本の被災者を救う立場と考えたと頑張れた。」と感想を述べていました。

また、漕艇部は「母校のボート部を支援したい」との思いから募金活動を開始。1年生のうち2名の出身高校である熊本学園大学付属高校のボート部が被災し、練習や大会出場ができない状況を知り少しでも役に立てればと考え募金活動をしたそうです。

発案者の松村祐治さん（体育学科1年 熊本学園大学付属高校卒）は「少しでも母校の役に立てばと考え、募金活動を呼びかけました。多くの学生の皆さんに協力してもらい感謝しています。」と話してくれました。

なお、本学では熊本地震で被災され、避難所や車中泊を余儀なくされている被災者に対し、ホームページを通じて「エコノミークラス症候群予防法」と「予防のための運動」の資料を作成し公開しています。



学内で募金活動を行う男子サッカー部員（上）と漕艇部員

仙台89ERS スポンサー感謝の集い

5月17日、勝山館にて開催された「仙台89ERS 2015-2016シーズン スポンサー感謝の集い」に朴澤理事長・学事顧問と法人事務局の品田さんと出席させていただきました。会場には78社ある公式スポンサーの中から約50名が集まり、株式会社グランスポールを始め、多くの方々と交流を持つことができました。

感謝の集いは球団代表中村彰久氏のあいさつで始まり、スポンサー企業への感謝の言葉がありました。その後選手とチームスタッフが入場し、レギュラーシーズン東地区2位だったこと、プレーオフの2戦をホーム開催することができたこと、惜しくもファイナル進出を逃してしまい目標達成には届かなかったがチームが一丸となって戦い、誇らしいチームであったことなど、キャプテンの志村雄彦選手より報告されました。

仙台89ERSは今年10月より新しいリーグ（B League）1部への参戦が決定していますが、新しいチーム作りの見通しや会社の新事業案が発表されました。B Leagueへの参戦はより高いレベルのチームや選手との戦いを意味します。日本代表選手やその候補選手が存在し、またそれらのチーム運営会社は資金力も上です。どのように戦っていくのか、その見通しはまず、日本代表レベルの選手を獲得すること、NBAチームとの業務契約（現時点では姉妹都市であるダラス市のチーム・ダラスマーベリックスへの事業交渉を視野に入れているとのこと）をすること、ホームアリーナとなる仙台市体育館を改修すること（座席や照明などをもっとエンターテイメント性の高いものに改修）、地元大学と提携しプロ候補生を早期から育成することなどが挙げられました。



左から、佐藤文哉選手（本学OB）、朴澤理事長・学事顧問、鈴木保之香さん（仙台89ERS777ズ 本学OG）

さらにはジュニアチームの立ち上げ、宮城県バスケットボール協会とのさらなる連携、そして練習施設の増設なども視野に入れ、これまで3.5億円の事業規模であったところを早く5億円まで上げ、将来的には10億円に拡大していきたいとしました。仙台89ERSは常勝し、スタープレイヤーが存在する『最も人気のあるチーム』を作ること为目标にしています。

今シーズンの佐藤文哉選手（明成高校-仙台大学卒）は平均得点8.9点、スリーポイント成功率37.1%という成績となりました。1月に仙台で開催されたbjリーグオールスターではスリーポイントコンテストに初出場するという事も叶え、実りの多いシーズンになったことと思います。今シーズンの89ERSは東地区2位、プレーオフセミファイナル進出、という素晴らしい成績でシーズンを終えました。しかしながら、決して納得のいく最後ではなかったことも確かです。プレーオフセミファイナルをホームで迎えた秋田ノーザンハピネットとの試合は、レギュラーシーズンで3勝1敗と勝ち越していながらも2連敗という結果でした。昨シーズンの最後はレギュラーシーズン中に4戦4勝と勝ち越していた青森ワッツにプレーオフで2連敗しています。勝たなければいけない試合に勝てないことは、新リーグでは2部降格も有り得ます。このような終わり方が続かないよう、新チームのチーム作りに期待したいと思っています。

仙台89ERSを離れて3シーズンが過ぎ、シーズンごとに成績を伸ばしているチームを誇りに思い、優勝してくれることを願っています。これからもスポンサー企業の関係者として、そして一バスケットボールファンとして仙台89ERSを応援し続けようと思います。最後になりましたが、今なおチームとあたたかい交流を持たせていただける環境と、このような会に出席させて頂く機会をくださいました朴澤理事長・学事顧問をはじめ関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

（報告：白坂広子新助手）

大元 英照 選手(アイリスオーヤマ)がリオ五輪出場決定

本学を平成19年に卒業した大元英照選手(アイリスオーヤマ)が、8月にブラジルで開催されるリオデジャネイロオリンピックのボート競技(男子軽量級ダブルスカル)の代表に決定しました。

大元選手は4月25日に韓国・忠州で行われたアジア・オセアニア予選において同種目で2位となり日本のオリンピックへ出場権獲得に貢献。5月18日に出場が正式に決定しました。

本学からオリンピックのボート競技に出場するのは大元選手が初めて。リオデジャネイロでの大活躍が期待されています。



産学提携(寄付)講習会 ラグビー指導者講習会開催

5月24日(火)、元ニュージーランド代表選手のニコ・ギア氏を講師に迎え、ラグビー指導者講習会が仙台大学第二グラウンドラグビー場を会場に開催されました。

講習会には本学学生や仙台高等専門学校の生徒の皆さん、山形県や青森県のラグビー指導者など約50名が参加しました。

参加者は、ラグビーの本場であるニュージーランドの元代表の指導を自らの競技力や選手指導に役立てようと熱心に耳を傾け、実践のトレーニングに取り組んでいました。

本講習会は(株)ボディプラスインターナショナル様の寄付による産学提携講習会で、東北のラグビーのレベルを高め、また、競技者人口を増やすことを目的に開催されました。

なお、6月4日(土)と5日(日)には、ニュージーランドで7人制ラグビーのコーチやレフリーとしてご活躍されているピーター・ノック氏を講師に迎えての講習会も予定されております。



講習会参加者に指導するニコ・ギア氏

仙台大学同窓会宮城仙南支部設立

5月21日(土)に仙台大学学生食堂「なちゅら」を会場に、仙台大学同窓会宮城仙南支部設立総会が行われました。

当日は、仙南地区の2市7町(白石、角田、柴田、大河原、村田、蔵王、七ヶ宿、川崎、丸森)に在住する卒業生40名が出席して開催されました。

設立総会では、支部長に山本玲さん(川崎町立川崎中学校校長 9回生)が選出され、「仙台大学に一番身近にある支部として、仙台大学発展のために寄与していきたい。」とごあいさつされました。



設立総会集合写真

また、総会後の懇親会では一人一人の自己紹介などもあり、卒業生同士の世代を超えた交流がなされていました。

なお、仙台大学同窓会宮城仙南支部設立に当たり、会員登録への案内をお送りしたところ、約90名の方々から賛同をいただき活動をスタートさせました。

仙台大学同窓会は現在、全国に26支部あり、多くの卒業生が仙台大学のために活動を展開しています。創立50周年となる2017年に向けて、卒業生と本学関係者の交流がさらに深まることを祈念しています。

第90回学術集会(平成28年度 新任教員発表会)

5月10日(火)16時より、A棟2階大会議室において、今年度最初の学術集会として「新任教員発表会」が行われました。代表幹事である小濱明教授の進行のもと、今年度新任教員として大学に着任された10名の先生に、各々の専門分野でのこれまでの活動や研究の報告や、今後の研究や展望などについて発表していただきました。

10名の先生方による発表は、それぞれおよそ6分間という短い持ち時間であったため、各研究に関する議論までは至らなかったものの、いずれも専門性に特化したとても興味深い内容の報告ばかりであり、今後の本学における教育研究活動に多大なる貢献を期待できるものでありました。

なお、新任教員発表会後には「平成28年度学術集会総会」と「新任教員を囲む会(懇親会)」開かれました。

今後は9月下旬の「科研費研修会・応募説明会」、10月下旬に「研究計画に基づく研究費」の成果発表会、時期は未定ですが、「スポーツシンポジウム」や「学術講演会」を企画運営していく予定となっています。一人でも多くの先生方のご参加をお願いいたします。



発表を行う柴田准教授

(学術会運営委員会・広報係)

NO.	テーマ	発表者
1	対人関係育成のための指導法～プロセスレコードを用いて	江口 千恵 特別任用講師
2	復興応援プロジェクトの実践	菊地 博 教授
3	武道と日本の警察について	紀野國宏明 准教授
4	子どもの見方と「保育観」	柴田千賀子 准教授
5	生体色素が彩るストレス応答の分子機構	柴原 茂樹 教授
6	校内研究推進への校長としての関わり方	末永 清悦 教授
7	研究のテーマとこれまでの研究活動	高橋 徹 講師
8	第94回オーストラリアオープン陸上競技選手権大会参加報告	名取 英二 准教授
9	これまでの活動報告と今後の研究について	宮崎 利勝 講師
10	水中環境におけるヒトの能動的姿勢制御に関する研究	渡邊 泰典 講師

タイとデンマークから留学生が来訪



阿部学長への挨拶に訪れた Porichaya Sricharoenさん(右から3番目) Nawaporn Ruaypongさん(左から2番目) Patrick Mickey Hansenさん(中央)

5月30日、本学との提携校であるシーナカリンウィロート大学(タイ)からPorichaya Sricharoen(ニックネーム: Eve)さんとNawaporn Ruaypong(ニックネーム: Wai)さんが、トリレベルト大学(デンマーク)からはPatrick Mickey Hansenさんが本学に留学のため来訪し、阿部学長に来日の挨拶を行いました。

EveさんとWaiさんの2名は7月までの短期の滞在となり、期間中はテニスや剣道などの授業を履修することになっています。

また、Patrickさんは11月までの期間で、柴田町内の保育所と幼稚園でインターンシップをすることになっています。

3名とも日本語や日本の文化に大変興味を持ちながら来日したとのことですので、学内等でお見かけの際には、ぜひお声掛けください。

復興庁・学生ボランティア促進イベント 参加団体に選定

復興庁では、平成24年から毎年、大学生を中心に夏休みなどの長期休暇を利用した被災地におけるボランティア活動への参加を呼び掛けるキャンペーンを実施しています。平成28年度も「東北の“いま”を知る。東北で“これから”を考える。さあ、共に。」をテーマとして、引き続き学生ボランティアの参加促進を展開しています。この一環として今年度は、東日本大震災からの復興支援を目的としたボランティア活動をしている大学生を対象とし、「今だからできること～復興の先を見据えて～」と題した学生ボランティア促進イベントが開催されることとなりました。本学からは、東日本大震災発生直後から実施していた避難所でのエコノミークラス症候群予防のための運動提供や、現在も仮設住宅や災害公営住宅で継続している「健康づくり茶話会」の活動について応募し、見事、宮城県内の大学で唯一の参加団体に選定されました。



被災地で活動する学生の様子

本イベントは、平成28年6月12日（日）に東京都で開催され、当日は現在も被災地の健康づくり事業に積極的に参加している学生3名が、本学の取り組みについて発表します。東日本大震災からの復興という観点のみならず、東北の活性化を含めた復興の先を見据えた取組みについて、他大学のボランティア実践者たちと多くの意見を交わし、学生たちがもう一度、宮城県の復興について考えるきっかけになればと考えています。（報告：新助手 齋藤まり）

第26回 仙台国際ハーフマラソン大会 仙台市姉妹都市国際交流会



5月8日（日）、第26回仙台国際ハーフマラソンが開催されました。

特別招待選手の川内優輝選手（埼玉県庁）やゲストラナーの高橋尚子さんなど有名ランナーも出場し、本学関係者や一般ランナーを含む1万3336人が新緑の杜の都仙台を駆け抜けました。

大会終了後には、国際姉妹都市からの選手団と仙台市民の交流を目的とし、江陽グランドホテルにおいて開催された交流会に本学と協定を締結している大学があるベラルーシや中国など更なる交流発展を目指して参加しました。ベラルーシ共和国ミンスク市や中国長春市等8ヶ国の選手団の紹介や成績発表、日本文化体験として餅つき大会で交流を深めることができました。

また、本学が白石市、柴田町と行っている2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるアスリート事前キャンプ誘致の案内を姉妹都市関係者に配布しました。特にベラルーシ選手団の引率者セルゲイ・フルマノフ氏（ミンスク市体育局長）に本学とベラルーシ国立体育大学の関係や本学の施設を紹介し、本学に大変興味を持たれた様子でした。

朴澤理事長・学事顧問、阿部学長をはじめ韓国、中国、台湾の留学生も交流会に参加し、駐仙台大韓民国領事館総領事 梁 桂和ヤン グフア総領事や各国選手団と楽しい時間を過ごしました。

（報告：事業戦略室 鈴木 美生）



平成28年度 明仙育進会を開催



5月18日（水）KMCH大会議室において平成28年度明仙育進会が開催され、本学と姉妹校の明成高等学校出身者の45名の学生がKMCHに一同に参集しました。朴澤理事長・学事顧問、明成高等学校海和由美子教頭先生からのご挨拶の後、明成高等学校進路部長の伊藤治子先生からの挨拶では「仙台大学には現在97名の明成高等学校出身者が

明成高校から体育学科に進学した学生



庄司 強さん
（体育学科1年 陸上競技部・長距離部門）

登米市南方中学校で陸上部に所属。更に上を目指すため明成高校に入学しました。遠方のため仙台市内に

ある母方の実家から明成高校に通い現在に至っています。

仙台大学では専門的なスポーツ科学を学び競技力向上をめざして努力していきたい。大学での目標は、全日本インカレに出場し入賞すること、そして全日本駅伝への出場めざし頑張りたいです。



佐藤 佑志郎さん
（体育学科1年 陸上競技部・長距離部門）

槻木中学校時代は陸上部がなく野球部に所属。中学校代表として駅伝に出場し、明成高校へは中村先生の指導を仰ぐため入

学しました。

仙台大学では、将来の進路を考えて体育の教員になるために頑張っていきます。大学での目標は教員を目指し、しっかり勉強していくこと、全日本駅伝に出場することを目標に練習に励みたいです。

柔道部が東北学生優勝大会 男女アベック優勝を報告

5月22日（日）、宮城県武道館を会場に河北新報旗争奪東北学生優勝大会が開催されました。結果は、男子が2年連続2回目の優勝、女子は見事10連覇を達成しました。

男子は決勝戦で秋田大学と対戦し、4対2の接戦を制しました。また、女子は3校でのリーグ戦で全勝しての優勝でした。

5月24日（火）には、リオデジャネイロオリンピック柔道日本代表女子監督でもある南條充寿監督、南條和恵女子監督、川越男子主将、月野女子主将が学長室を訪れ結果を報告し、6月25日と26日に東京・日本武道館を会場に開催される全日本学生優勝大会での活躍を誓っていました。



男子バレーボール部がASEトレーニング

平成28年3月31日（木）宮城県栗原市の国立花山青少年自然の家にて、本学岡田講師および岡田ゼミ生の指導の下、男子バレーボール部で野外トレーニングを行いました。

通称ASE（Action Socialization Experience）と呼ばれる野外トレーニングは、個人では解決できない課題に対して、グループのメンバー同士が協力しながら課題を解決していくトレーニングです。課題の成功・失敗に関わらず毎回ふりかえり（シェアリング）が行われることで、グループのメンバー同士の信頼感や協力関係が生まれ、自分自身や仲間、グループについての新しい気づき・発見が得られます。

近年、多くのトップチームがこのASEを実践しており、本学でも女子サッカー部、女子ハンドボール部がすでに実践されています。今回の男子バレーボール部のASE体験では、1）チームワークの向上、2）チームや仲間、自分に対する新たな気づき・発見、3）新入生と在学生、選手・スタッフ間の交流を目的として行いましたが、私が想像していた以上に、学生一人一人の秀でた部分や課題を見つめなおすことが出来、大変有意義な活動でした。

このような活動を通じて、スポーツの専門スキル以外での課題を浮き彫りにし、チームや個々のメンタリティーを向上させ、人間力の向上に発展させていきたいと考えています。また、種目間を越えた交流を深め、仙台大学だからこそ出来る有効なトレーニング方法として、本学のブランド力を高めることにつなげていきけるよう、今後も岡田先生の協力をいただきながら、継続してトレーニングしていきたいと考えております。

（報告：石丸 出穂 准教授）



ASEトレーニングを行う男子バレーボール部員

ウェイトリフティングフェスティバル in SHONAIに出場

4月23日（土）、羽黒体育館（山形県鶴岡市）で開催された「第2回ウェイトリフティングフェスティバル in SHONAI」に本学のウェイトリフティング部（女子1名、男子5名）が出場しました。阿部芳吉学長も応援に駆けつけてくださり、選手を鼓舞していただきました。

女子53kg級に渡部詩乃（体育2年）が出場し、優勝を期待されていましたが、スナッチを3回連続で失敗して失格したため、クリーン&ジャークで66kgを成功させたが、トータルの順位はつきませんでした。

男子69kg級小川純（運動栄養3年）スナッチで自己新記録の100kgに成功し優勝した。77kg級は、今野拓弥（体育4年）がコンディションの悪いながらも4年生の維持を見せて優勝した。94kg級は、保科魁斗（体育1年）と大津恭輔（体育3年）の対決となった。スナッチで大津が105kgを成功し5kgリードしたが、クリーン&ジャークで保科が136kgを成功し、トータルにおいて1kg上回ったため保科が2位、大津が3位という結果になりました。今回大会は、学生にとっては「たかが1kg、されど1kg」という言葉が身に沁みる大会であったと感じました。

（報告 新助手 壹岐 優）



94kg級 保科魁斗選手

全日本女子学生ウエイトリフティング選手権大会出場

5月6日（金）～5月8日（日）に大阪府羽曳野コロセアムで開催された「第28回全日本女子学生ウエイトリフティング選手権大会」に女子53kg級として渡部詩乃（体育2年）、大野美幸（健康福祉1年）が出場しました。

結果は、渡部が、スナッチ54kg-9位、クリーン&ジャーク66kg-7位、トータル120kg-7位と健闘し、2週間前の課題を克服し結果を残しました。大野は、スナッチ51kg-10位、クリーン&ジャーク66kg-8位、トータル114kg-8位と大学生として初の全国の舞台であったが落ち着いた試技でした。

会場には、阿部芳吉学長が駆けつけてくださり、暑い声援を送っていただきました。試合後は、学生の健闘と称え、温かいお言葉をかけていただきました。

今大会は、取り組んできた課題の改善が見られ、全国の舞台で2名が入賞できた事は、誠に嬉しく思っております。しかし、上位に入賞している他大学とは、技術、経験値で大きな差があると改めて痛感しましたので、基礎から鍛え直して、競技力向上に努めて参ります。 <報告者 新助手 壹岐優>



ライフセービング同好会がボーイスカウト全国大会で安全啓蒙活動を実施



気仙沼ライフセービングクラブの方々とともに

5月28日（土）～29日（日）仙台市役所前市民広場で行われた、平成28年度ボーイスカウト全国大会「スカウティングエキスポ」において、気仙沼ライフセービングクラブとの共同で仙台大学ライフセービング同好会の3名が日本ライフセービング協会のブースを担当し「水の安全」と「人命救助」について展示・実演しました。

内容はBLS（Basic Life Support＝一時救命処置）で、胸骨圧迫（心臓マッサージ）の方法や、AED装置の使用方法について全国各地から集まったボーイスカウトの子供たちや一般の来訪者にマネキンを使い実際に心肺蘇生を体験してもらう活動を行いました。

ライフセービング同好会は震災以降、水辺の事故を防ごうと同好会を立ち上げ活動を続けてきましたが、初期メンバーが3月に卒業し部員数1名となったことで同好会存続の危機となりました。この存続の危機を救ったのが今回、「スカウティングエキスポ」に参加した1年生3名で、今回が活動の初仕事となりました。現在、先輩の志を引き継ぐ2年生1名と、1年生3名の、部員数4名で新生ライフセービング同好会が始動しています。今年の夏休みは気仙沼ライフセービングクラブとともに、気仙沼市大島の「小田の浜海水浴場」でガード活動を行うことを予定しているそうで、東日本大震災を経験した体育系大学の活動としても、今後のライフセービング同好会の地域貢献活動に期待が寄せられます。

かずほ

三浦 千穂さん（体育学科1年・釜石高校出）



蘇生法の講習を行う三浦さん（右）

ライフセービングの魅力は、海だけでなくどの場でもできる人命救助できる活動であること、全国でライフセービング活動をしている方々と情報交換し交流ができることにあります。今回ブースを訪れ体験されたボーイスカウトの方々は、AEDの使い方を知っている方が多数でした。心臓マッサージの方法は、圧迫の強さやリズムなど、やってみないと判らないことばかりなのでこれからも忘れないよう何回か経験してほしいと思います。

私自身、ライフセービングのジュニアユースの大会に誘われ出場したのをきっかけに、高校1年で全国大会の本選出場、高校3年には所属する釜石ライフセービングクラブの女子メンバーでラインスロー全国大会3位、マネキン・トウ・ウィズフィン全国大会個人7位と入賞した実績があります。これからは大会に出場し、技術をより高いものにしていきたくと思っています。